



# 改憲草案の問題点を指摘

## 第36回憲法研究会を開催

### 新宗連憲法研 長谷部恭男氏が解説



長谷部恭男氏(左)と新宗連憲法研究会のメンバー。長谷部氏は「自民党改憲草案の問題点を指摘する」と述べた。

新日本宗教団体連合会(新宗連)の憲法研究会(憲法研)は、3月16日午後2時から、東京・代々木の新宗連会館で第36回憲法研究会を開催した。

はじめに、早稲田大学法学部教授の長谷部恭男氏が講師に招き、「自民党改憲草案の問題点」をテーマに学習会を行った。長谷部氏は、自由民主党憲法改正草案(2012年発表)の第20条3項で、国や地方自治体などは「特定の宗教の活動を促進する」という趣意を込めて、改憲草案の第102条に「全ての国民は、この憲法を尊重しなげなければならない」という憲法尊重義務が記されたことについて解説。現行憲法の第99条では、国民には義務はないと述べた。

続いて、改正草案の第102条に「全ての国民は、この憲法を尊重しなげなければならない」という憲法尊重義務が記されたことについて解説。現行憲法の第99条では、国民には義務はないと述べた。

## 各氏が専門分野で説明

### 第27回人権啓発基礎講座



新宗連と同推進連絡協議会(同推進)の第27回人権啓発基礎講座の様子。講師は長谷部恭男氏(左)と、新宗連の代表者(右)。

新宗連と同推進連絡協議会(同推進)は、3月9日、10日、京都市の関西セミナーハウスで「第27回人権啓発基礎講座」を開催した。

9日午後2時から、一般社団法人部活解放・人権研究所代表理事の友永健三氏が「同和行政と自主解放」をテーマに講演。友永氏は「交流から差別を解消すること」と題し、同和行政の現状と課題、風習、法制度の見直しを訴える友永氏

## 「交流」の必要性や法制度の見直し学ぶ

### 宗教とグローバル化

### 国際宗教研究所公開シンポジウム開催

国際宗教研究所(星野英紀理事長)は、2月20日午後1時から、大阪府守口市の大阪国際大学守口キャンパスで「グローバル化の進展と日本の宗教」をテーマに公開シンポジウムを開催した。同所の東京工業大学教授の山本達也氏が、外国人観光客の増加は日本の政治経済のみならず、宗教にも影響を及ぼすと述べた。

音羽山清水寺執行部の西宮玄氏(左)は「光ある未来を願って」と題し、昨年外国人観光客が過去最高となったことに触れ、「多種多様な文化と交流する機会が増えた」と述べた。そのため

「近年における在留外国人とその宗教の実態」と題し、在留外国人(ニューカマー)が大幅に増えている状況をデータで提示。各地にモスク、教会、寺院が設立され、宗教の多文化は進展しているとし、「彼らは心深い日本人、日本を心から愛する人々として、我々も心から受け入れなければならない」と述べた。

音羽山清水寺執行部の西宮玄氏は「光ある未来を願って」と題し、昨年外国人観光客が過去最高となったことに触れ、「多種多様な文化と交流する機会が増えた」と述べた。そのため

「日本臨床宗教師会」が設立  
高まる臨床宗教師への期待

被災地や公共空間で心のケアを提供する「臨床宗教師」の全国組織「日本臨床宗教師会」が2月28日に設立され、京都市下京区の龍谷大学大宮学舎で記念シンポジウムと発会式が行われた。

東日本大震災を契機に、宮城県宗教法人連絡協議会が中心となり、「心の相談室」が設置され、異なる宗

「和解と平和構築センター」に決定  
対話による和解を評価

野野平和財団(野野日鏡名誉会長、野野浩士理事長)は2月23日、京都市内のホテルで記者会見を行い、「第33回野野平和賞」をスリランカの「和解と平和構築センター(CPBR)」に贈呈することを発表した。

スリランカは比較的小さな国でありながら、複数の宗教、民族、言語を

「諸会議報告」  
第6回委員会を開く

新宗連青年会連盟(新宗連青年会、岩淵大委員長)は3月17日午後1時半から、東京・代々木の新宗連会館で平成27年度第6回委員会を開催した。

この後、東北大学教授の鈴木岩川理事が設立の経緯、同教授の山洋三事務局長が目的について説明。また全国6地区に広がる臨床宗教師会の高橋悦雄代表が抱負を述べた。

「ともに「福幸」の祈り」  
京都府協議会青年部PL京都教会で式典

京都府協議会青年部(渡辺恵司部長)は3月20日午前10時から、京都市北区のパーフェクト・リパティール教会(PL)京都教会で「2016 平和と幸せ「福幸」を祈ろう」をテーマにした式典を開催した。

参加4教団の代表が折鶴を奉納した後、順次、教団別の礼拝を捧げた。また参加者全員で黙祷を捧げた。

「70周年記念式典」  
記念シンポジウム開催

新宗連政治委員会(菅本恵司委員長)は3月3日午後3時から、東京・代々木の新宗連会館で第28期第7回委員会を開催した。

昨年12月12日に政治委員会が主催した「現代社会と政治問題」講演会について、講演者として参加した菅本恵司委員長が報告を行った。菅本氏は「新宗連の活動が、政治界に与える影響を高めることが重要」と述べた。

「70周年記念式典」  
記念シンポジウム開催

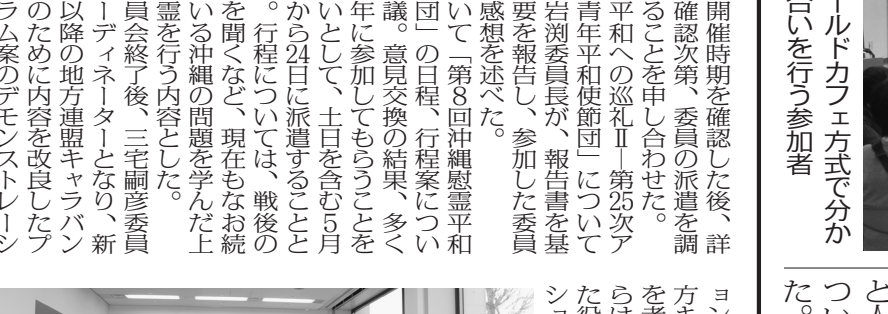
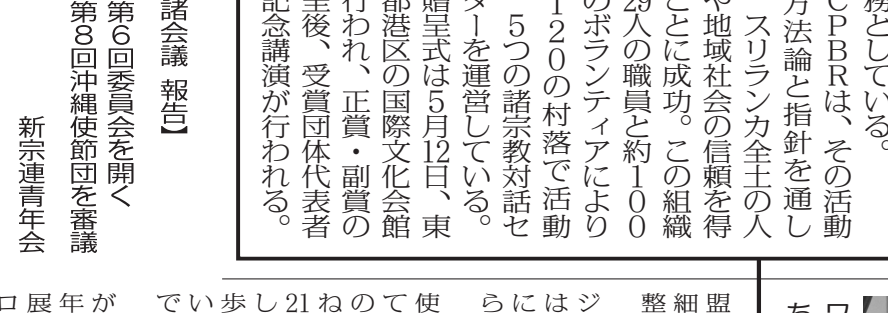
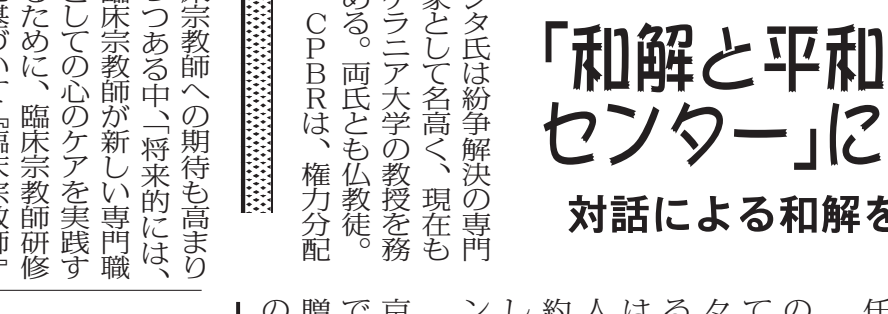
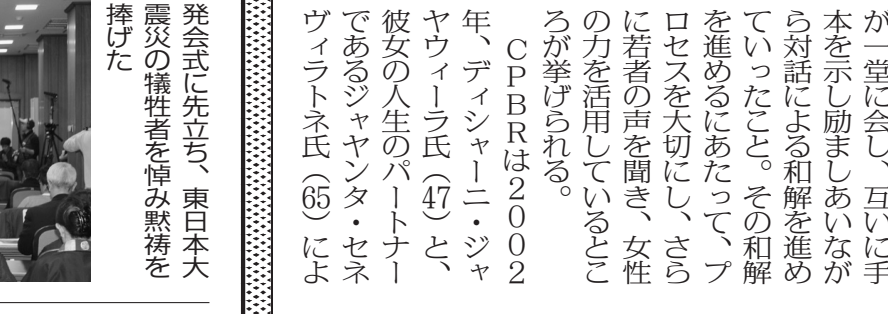
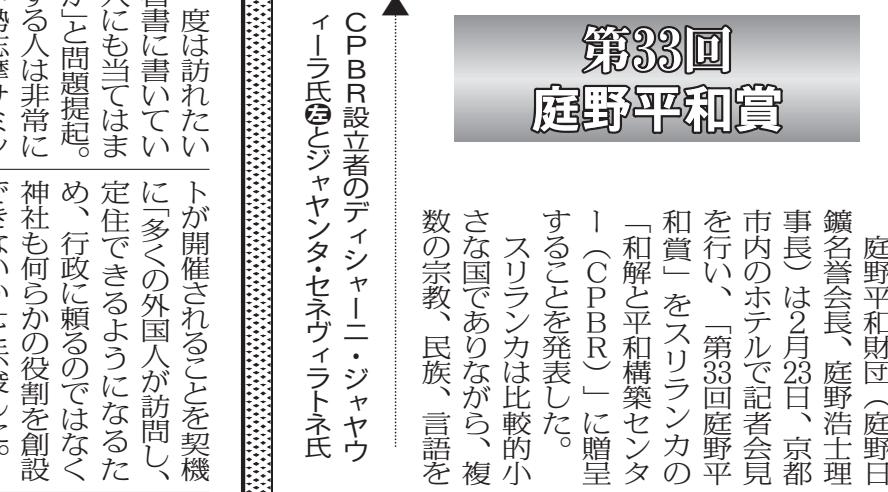
新宗連政治委員会(菅本恵司委員長)は3月3日午後3時から、東京・代々木の新宗連会館で第28期第7回委員会を開催した。

昨年12月12日に政治委員会が主催した「現代社会と政治問題」講演会について、講演者として参加した菅本恵司委員長が報告を行った。菅本氏は「新宗連の活動が、政治界に与える影響を高めることが重要」と述べた。

「70周年記念式典」  
記念シンポジウム開催

新宗連政治委員会(菅本恵司委員長)は3月3日午後3時から、東京・代々木の新宗連会館で第28期第7回委員会を開催した。

昨年12月12日に政治委員会が主催した「現代社会と政治問題」講演会について、講演者として参加した菅本恵司委員長が報告を行った。菅本氏は「新宗連の活動が、政治界に与える影響を高めることが重要」と述べた。



思親会の教え学ぶ  
東京都協議会 本部を訪問、親睦図る

東京都協議会は平成27年度訪問として、3月8日、神奈川県伊勢原市の思親会本部を訪問した。

午後2時から思親会本部で開かれた。榎神壇に向かい、参加者は各教団の礼拝の様式を参拝した。

「福幸」の祈り  
京都府協議会青年部PL京都教会で式典

京都府協議会青年部(渡辺恵司部長)は3月20日午前10時から、京都市北区のパーフェクト・リパティール教会(PL)京都教会で「2016 平和と幸せ「福幸」を祈ろう」をテーマにした式典を開催した。

参加4教団の代表が折鶴を奉納した後、順次、教団別の礼拝を捧げた。また参加者全員で黙祷を捧げた。

「諸会議報告」  
第6回委員会を開く

新宗連青年会連盟(新宗連青年会、岩淵大委員長)は3月17日午後1時半から、東京・代々木の新宗連会館で平成27年度第6回委員会を開催した。

この後、東北大学教授の鈴木岩川理事が設立の経緯、同教授の山洋三事務局長が目的について説明。また全国6地区に広がる臨床宗教師会の高橋悦雄代表が抱負を述べた。

「ともに「福幸」の祈り」  
京都府協議会青年部PL京都教会で式典

京都府協議会青年部(渡辺恵司部長)は3月20日午前10時から、京都市北区のパーフェクト・リパティール教会(PL)京都教会で「2016 平和と幸せ「福幸」を祈ろう」をテーマにした式典を開催した。

参加4教団の代表が折鶴を奉納した後、順次、教団別の礼拝を捧げた。また参加者全員で黙祷を捧げた。

「70周年記念式典」  
記念シンポジウム開催

新宗連政治委員会(菅本恵司委員長)は3月3日午後3時から、東京・代々木の新宗連会館で第28期第7回委員会を開催した。

昨年12月12日に政治委員会が主催した「現代社会と政治問題」講演会について、講演者として参加した菅本恵司委員長が報告を行った。菅本氏は「新宗連の活動が、政治界に与える影響を高めることが重要」と述べた。

「70周年記念式典」  
記念シンポジウム開催

新宗連政治委員会(菅本恵司委員長)は3月3日午後3時から、東京・代々木の新宗連会館で第28期第7回委員会を開催した。

昨年12月12日に政治委員会が主催した「現代社会と政治問題」講演会について、講演者として参加した菅本恵司委員長が報告を行った。菅本氏は「新宗連の活動が、政治界に与える影響を高めることが重要」と述べた。

「70周年記念式典」  
記念シンポジウム開催

新宗連政治委員会(菅本恵司委員長)は3月3日午後3時から、東京・代々木の新宗連会館で第28期第7回委員会を開催した。

昨年12月12日に政治委員会が主催した「現代社会と政治問題」講演会について、講演者として参加した菅本恵司委員長が報告を行った。菅本氏は「新宗連の活動が、政治界に与える影響を高めることが重要」と述べた。



# 平和への巡礼Ⅱ 第25次アジア青年平和使節団

詳報



戦争犠牲者慰霊並びに世界平和祈念式典の前に、サンプラプーンとその周辺を心を込めて清掃し、花や供物で荘厳した(24日)

泰緬鉄道建設で亡くなった犠牲者を追悼するために、日本人が建立したジャパンバゴダで慰霊を行う参加者ら(21日)

新日本宗教団体連合会(新宗連、保積秀胤理事長)と新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会、岩淵明大委員長)が2月19日から26日まで、ミャンマー連邦共和国とタイ王国に派遣した「平和への巡礼Ⅱ」第25次アジア青年平和使節団。新宗連加盟の7教団(円心教・解脱会・松緑神道天山・善隣教・大和教団・妙智會教団・立正佼成会)の23人が参加し、両国の戦跡を巡り、戦争犠牲者慰霊と絶対非戦・世界平和を祈願した行程を振り返ってみたい。



20日、ミャンマーの日本人墓地内にある、ビルマ方面で戦没した人々を偲び建立された、両国民の友好の象徴となっているビルマ平和慰霊碑で献花、献香を行い、各教団の礼拝様式で祈りを捧げた。その後、約7時間かけ南東部モン州の港町モーラマインまで移動した。

21日、泰緬鉄道沿線のミャンマー側起点であるタンビュザヤに移動。同鉄道建設で亡くなったイギリス、オーストラリア、オランダ人捕虜が眠る連合軍墓地、犠牲者が追悼するため日本人が建立したジャパンバゴダなどを参拝した後、1月に開館したばかりの「死の鉄道博物館」を見学。泰緬鉄道博物館の慰霊と平和を祈念する式典を執り行った。



泰緬鉄道の中でも建設に難関を極めたといわれるワンポーの木橋

## カメラリポート

### 2月19~26日 ミャンマー、タイへ派遣

新宗連  
新宗連青年会

カンチャナブリ市内の戦没者慰霊塔前で献香を行い、慰霊の誠と祈りを捧げる参加者(23日)



ヘルファイア・バス・メモリアルにある、線路を通すために山を切り崩した「コンウウの切り通し」で慰霊(23日)



22日、タイ・バンコク市内のホテルでBコース参加者と合流。結団式とAコース参加者によるミャンマー報告会を行った。23日は、西部リ市にあるJ E A T H戦争博物館や連合軍墓地、戦没者慰霊塔、メクロン鉄橋、クワイ河平和寺院、ヘルファイア・バス・メモリアルなど泰緬鉄道に関わる戦跡を訪れ研修を重ね、各地で慰霊供養を行った。訪問地の一つであるクワイ河平和寺院は、泰緬鉄道の建設当時、憲兵隊通訳を務めた永瀬隆氏(2011年逝去)が1986(昭和61)年、慰霊と平和を祈るために建立した。新宗連青年会にとって、永瀬氏は第1次アジア青年平和使節団(1974年)で現地案内を務めた恩人であり、その生涯を同鉄道犠牲者の慰霊に捧げた姿勢は、新宗連青年会の指針と行動に大きな影響を与えた。同寺院では、永瀬氏に対する感謝も込めて祈りを捧げた。

24日はサイロムトク国立公園内の泰緬鉄道が現存する最終地点近くの「ナムトク」の丘で、戦争犠牲者慰霊並びに世界平和祈念式典を厳格した。この丘には、第1次使節団が同鉄道建設犠牲者を慰霊するために建立したサンプラフリン(タイ式供養塔)がある。その碑文には「ここに大東亜戦争の証人」が眠るフーゲンヒリアの花の咲くかきり、私たちはあなた方の平安を祈りつづけます」と記されている。式典は、参加者がサンプラフリンとその周辺を心を込めて清掃、花や供物で荘厳し、岩淵明大委員長のおいでで開式した。久大道臣理事と庭野光祥理事が献花、保積志胤理事長と根本昌廣評議員が献香を行い、各教団全員で献香を行い、各教団の礼拝様式で戦争犠牲者に対して慰霊と供養の誠を捧げ、絶対非戦と世界平和への誓いを新たにされた。

# 平和のタスキつなぐ

## 京都で開催 Inter-Faith 駅伝2016



世界平和と東日本大震災の犠牲者の鎮魂と、被災地の復興の願いを込めたタスキをつなぐ参加者

異なる宗教を持つ4人が1チームとなり、世界平和を願いタスキをつなぐ「Inter-Faith(語学交流)駅伝2016」平和駅伝(願う祈りの駅伝)が2月21日、京都マラソンに併せて京都市内で開催され、仏教、神道・キリスト教・イスラーム・新宗教など40人の宗教者が10チームに分かれ、都大路を駆け抜けた。

今回も、世界平和と共に東日本大震災の犠牲者の「鎮魂」と被災地の復興を願う祈りを込めたタスキをつなぐ参加者が、被災地の復興を願う祈りを込めたタスキをつなぐ参加者

## 死者の弔いとは

### 東北大が公開シンポジウムを開催



公開シンポの最後、講演者全員による全体討議が行われた

東北大学宗教学研究室は2月20、21日、東京都港区の東京青山山荘で「イエヒキ時代の死者のゆくえ」をテーマに、公開シンポジウムを開催した。20日は午後1時に開会、東北大学教授の鈴木岩月氏が「死者を忘れない」死者の記憶「保持のメカニズム」と題して講演。これまでも死者の記憶保持のメカニズムとして機能してきた「イエ」(日本の伝統的な家族、経営組織)がなくなった後、それに代わって死者を祀り、記憶するの何になるのか、またそれはどのような形をとるか、と課題を指摘した。この後、早稲田大学教授の谷川章雄氏(近世

異なる宗教を持つ4人が1チームとなり、世界平和を願いタスキをつなぐ「Inter-Faith(語学交流)駅伝2016」平和駅伝(願う祈りの駅伝)が2月21日、京都マラソンに併せて京都市内で開催され、仏教、神道・キリスト教・イスラーム・新宗教など40人の宗教者が10チームに分かれ、都大路を駆け抜けた。

近年注目されるようになった現象として、①永代使用ではなく墓の使用期間を決め、その後は合葬する②血縁にこだわらず、友人や

仲間同士で墓を共有する③散骨などの「墓の無形化」の3点を解説。「(家族の経済的な問題に加え、地域や世間体の変化により、見えない人と見える人の人間関係があらわになってきた」と語り、「どう弔われるかはその人次第、生前の縁の結び方が問われている」と述べた。

この後、京都女子大学名誉教授の榎村久子氏(環境学)、大正大学教授の村上興臣氏(宗教学)の2人が講演を行い、最後に2日間に講演した全員が登場し、全体討議が行われた。

本願寺派、真宗高田派、日蓮宗、曹洞宗の宗勢調査の内容を組み合わせ、全国規模の統計と三重県、広島県、北海道などの地域的事例調査からなっている。また女性(仏教婦人会、坊守)の視点や、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)論など多角的な構成を特徴としている。新宗教を含め日本の宗教界全体が多かれ少なかれ直面している問題でもある。社会の大きな構造変化の中で、現状維持の対応策は求められていく際の貴重情報が必要とされている。(法蔵館 A5判 428頁 定価3,240円)

## 新刊紹介

### 人口減少社会と寺院

人口減少社会と寺院  
ソニーキャリア  
櫻井 義秀 山又 俊則 編

した日本創成会議「人口減少問題検討分科会」による報告をもとに、ある宗教者が、北海道と東北では、約7割の施設が「限界宗教法人」になると警鐘を鳴らしている。また、仏教界にとっては、単なる人口減少にとどまらず、宗教離れ(心の過疎化)への対応も求められている。